



photo - 788558

志々目 愛さん 柔道グランドスラム大会で優勝

2月23日(金)、柔道のグランドスラム大会がドイツ・デュッセルドルフで行われました。女子52キロ級に本校卒業生の志々目愛さん(H24年卒・庄内中出身)が出場し、4試合全て1本勝ちの圧勝で、大会を制しました。2020年東京オリンピック出場に向けて更なる活躍が期待されます。

志々目(日大) 高出 V 女子52キロ級

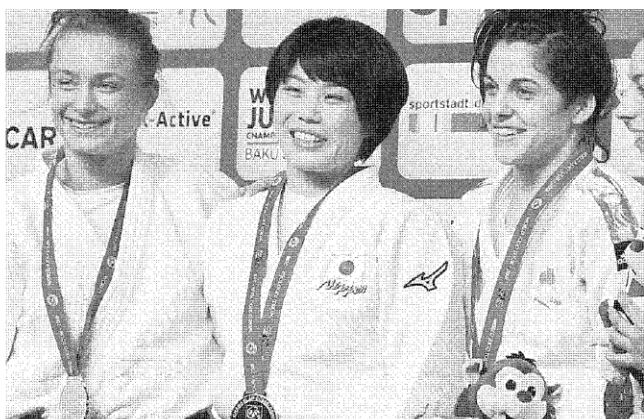
柔道 G S

【デュッセルドルフ(ドイツ)共同】柔道のグランドスラム・デュッセルドルフ大会第1日は23日、ドイツのデュッセルドルフで男女計5階級が行われ、女子52キロ級は昨年世界選手権覇者の志々目愛(了徳寺学園職、宮崎日大高出)が4試合全て一本勝ちの圧勝で制した。男子は60キロ級で昨年世界選手権代表の永山龍樹(東海大)が決勝でロシア選手に優勢勝ちして制覇。66キロ級は世界ランキング205位の田兼三(筑波大)が決勝で同12位のゲオルギー・ザンタラヤ(ウクライナ)に優勢勝ちし、優勝。橋口祐葵(ハーク24、延岡学園高)は3回戦で敗れた。女子で57キロ級の宇高菜穂(コマツ)は7位。

永山は一步成長

【井上康生・男子日本代表監督の話】(永山は一步成長していると感じた。(田川には「しっかりとチャンスを生かせ」と言って送り出したが、しっかりとまかした。ここがゴールではないので、次の高い目標を掲げて頑張っていく)」

圧勝 オール一本



柔道のグランドスラム・デュッセルドルフ大会で女子52キロ級を制し、笑顔の志々目愛(中央)＝デュッセルドルフ

寝技さえ「自信になる」

世界女王にふさわしい貫禄の優勝だった。女子52キロ級の志々目は4試合全て一本勝ちで表彰台の真ん中に立ち、「しっかりと結果を残せた」とし初めての大会だったので、しっかりと結果を残せたとは「すごく良かった。オール一本で勝てたことはすごい自信になる」と笑顔が浮かんだ。改善を誓っていた寝技ができた。最初の2試合は立ち技

ヒロイン

から寝技に持ち込んで連勝。決勝も相手が仕掛けた技を崩して、寝技で決めた。「チャンスがあるときはしっかりと寝技で勝つことができたので、そこが良かった」と、内容にも充実感をにじませた。昨年8月の世界選手権では初優勝を果たした。だが、12月のグランドスラム東京大会で3位に終わり、ことしの世界選手権代表の座を確定できなかつた。同階級は17歳のホープ、阿部詩(兵庫・夙川学院高)が台頭するなど、競争が激化しているが、「日本人選手で争えることは自分にとって刺激になる」と前向きに捉える。24歳の実力者は「世界選手権で優勝する」と明確に目標を語った。

永山 危なげなし 男子60キロ級

○…男子60キロ級の永山が通算3度目のグランドスラム優勝を果たした。初戦から3試合をオール一本勝ちで勝ち上がると、決勝は豪快な裏投げで技ありを奪い、危なげなく勝利。「きれいに勝とうとかではなく、何でもいから勝とうと思って一戦一戦できたのが勝ちにつながった」と分析した。昨年は世界選手権に初出場したが、3回戦敗退という苦い経験をした。21歳の新鋭は2年連続の出場を視野に入れつつ「今年は目の前の試合を一つずつ確実に勝っていくこと」を目標に挙げた。